

全国大会佐賀大会レポート

プランディング委員会

委員 杉本崇

2017年、四日市青年会議所に入会して以来、初めての全国大会が最後の全国大会となりました。全国大会に関しては、YouTubeで過去開催分を動画で閲覧していましたが、40歳の大人が涙していたのが印象的でした。実際に参加した感想は、感謝、感謝、感謝でした。

博多駅到着後から、既に「卒業生への慮り」をしていただき、特に渉外委員会さんの手配段取りのおかげで非常にスムーズに会場まで到着することができました。

会場に到着してからも、「卒業生への慮り」が色濃く、まさに特別扱いでした。ここまでしてもらえるんだと感嘆しながらも、どこか申し訳ない気持ちがありました。ですが、元モーニング娘。OGの3名がサプライズで登壇した瞬間飛んでしまいました。当時、青春の思春期真っ只中の私にとって、この設えは控えめに言って「サイコー」でした。OGでも若くキレのある飯窪さん、相変わらず元気でお茶目な矢口さん、25年の時を経てものすごい変化を見せつけた圭ちゃん。彼女たちですらも、私たち卒業生のために最高のパフォーマンスを見せてくれたのです。その後は、様々な方々の想いが述べられましたが、ここで理解したことがあります。それが正解かなんてありませんし、言語化することは難しいですが確かに感じ取ることができました。

その後は何といつても楽しみにしていたLOMナイトであります。お酒や食事だけでなく、メンバーの皆さんと共に共有した時間は、四日市とはまた違った楽しさがありました。「県外のときだけ心を解放する」といった逆男前にならないように気を付けました。

その後十分な休養をとった翌日は、残ったメンバーと「博多」を堪能させていただきました。

今回最初で最後の全国大会となりましたが、佐賀大会を開催設営してくれた全国の青年会議所会員はもちろん、四日市青年会議所メンバーにも改めて感謝を申し上げます。これだけの設えを実行していただくのには、度重なる調査や打ち合わせ、そしてそれに費やした膨大な時間があったと思います。青年会議所活動はそもそも、お金をもらうどころか、自ら負担して行うものです。だからこそ、ここまで尽力してくれたことに最大限の感謝をしたいと思います。残り数か月で卒業をさせていただきますが、今度はこちらが皆さんに少しづつでもお返しをしていきたいと思います。

